

## ご挨拶

森林は、木材の供給はもとより、豊かな水と空気を育み土砂災害を防止するなど多面的機能を有しており、近年その役割はますます重要性を増しています。また、木材は再生可能な地球環境に優しい、地域の貴重な資源です。

木材の利用を進めることは、森林の適正な整備が促され、県民の皆さんの安全安心な暮らしにつながるとともに、林業の振興にも貢献します。

このため、県では交番の木造化や県立学校体育館の内装木質化、木製ガードレールの導入など、県有施設や公共土木施設での木材利用を積極的に進めています。

さらに県産材の需要拡大をより一層進めるため、今年度新たに、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞」を創設いたしました。



福岡県知事  
小川 洋

初開催となった今回、木材の温かさや木目の美しさを感じさせる多数の優れた建築物の応募があり、選考委員会の厳正な審査によって、「木造の部」・「木質化の部」ともに素晴らしい建築物が選定されました。受賞建築物はいずれも、木造・木質化建築物の広がりを大きく期待させるものとなっています。

県では、平成25年3月に策定した「福岡県森林・林業基本計画」のもと、持続可能な林業経営の確立と健全な森林づくりを進めるため、今後も県産材のさらなる需要拡大に取り組んでまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

選考委員の皆さまのご尽力に感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまの、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

## 総評

日本には、木造を中心とした建築の歴史があり、数百年を超える木造建築物も数多く存在します。しかし、戦後は火災等の危険性から都市部の木造建築が制限され、戦中戦後の乱伐により資源的に

国産材が枯渇し、外材に多くを委ねてきました。ここにきて技術の進歩と森林資源の充実から、いよいよ日本の木造建築の復活の兆しが見えてきていますが、木づかいの技術や仕組みが継承されてこなかったため、大型建築物をはじめとした木造建築の建設が今ひとつ伸び悩んでいる状況です。

樹木は光合成によって大気中の二酸化炭素を取り込み、木材の形で炭素を固定しているため、木材の利用は大気中の二酸化炭素削減に有効だと言われています。また、木材は有機物であり、断熱性や調湿性など生活空間の中で素晴らしい機能性を発揮します。

一方、有機物であるが故の使い方の難しさがあることも確かです。そこで、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を表彰することで、建築関係者や県民の木材利用に対する関心が高まり、木材のさらなる利用促進につながるものと期待されます。

第1回福岡県木造・木質化建築賞には木造の部44点、木質化の部9点、総数53点 の応募がありました。

福岡県木造・木質化建築賞  
選考委員会  
委員長 藤本 登留



第1次選考では、6名で構成する選考委員会によって書類審査を行い、協議および投票によって木造の部6点、木質化の部3点、合計9点の建築物を選出しました。木材の魅力を醸し出す多くの建築物からの選考は難しく、選考委員による投票もばらつき、現地審査対象に漏れた多くの建築物にも票が入っていたことから、素晴らしい木造・木質化建築物が県内に数多く創りだされていることが分かりました。

第2次選考の現地審査は、12月25、26日の2日間をかけて実施しました。いずれも建築主、設計者、物件によっては施工者にも立ち会っていただき、様々な説明を受けました。木の良さを前面に出した建築物ばかりで、図面や写真だけでは感じ取れない木の空間の素晴らしさを実感できました。建築主からは、住み心地の良さなどの意見だけでなく、木材に対するこだわりがあるからこそ木材調達に苦労したといった実体験も聞くことができました。このような貴重な意見を聞くことで、県産材利用拡大に向けての大きな課題も浮き彫りになった思いがします。

最終選考は、現地審査直後の選考委員会で、各建築物の評価を協議した後に、投票によって選出しました。いずれも特徴的な建築物であり、比較すること自体が難しいといった意見もありましたが、最終的には木の良さや特徴を活かした建築で、県産材需要拡大の啓発に資する視点で各賞を選考しました。

公共建築物、社寺建築物、そして戸建てや集合住宅と、バラエティーに富んだ素晴らしい第1回福岡県木造・木質化建築賞受賞建築物をご紹介します。

## 福岡県木造・木質化建築賞

### 【表彰の目的】

県では、平成25年3月に策定した「福岡県森林・林業基本計画」のもと、持続可能な林業経営の確立と、健全な森林づくりに取り組んでいます。

中でも、県産材シェアの拡大を目指して住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産材の需要拡大を目指し、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し更なる普及啓発に努めるため本賞を創設しました。

### 【賞の対象】

県産材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

### 【賞の部門】

○木造の部(大賞・優秀賞)      ○木質化の部(大賞・優秀賞)      ○奨励賞

### 【主な選考基準】

- 国産材を積極的に利用している
- 建築物の木造・木質化に波及効果がある
- 国産材の特徴や良さが活かされている
- 国産材の利用を通じて、豊かな暮らしや社会を実現するもの

### 【選考委員】

役職名	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学大学院農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部建築デザイン学科教授
委員	土師 淳志	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	長谷川 彰	西日本新聞社編集局生活特報部長
委員	梶原 秀康	福岡県農林水産部林業振興課長

